



とよなか山田会ニュースレター 2号

山田洋次生誕から

（2018年 先行上映会でのお言葉）
今も高橋さんという方が
大切に住んでいただいている
残っているのはとても嬉しく、
「帰ってきた」との思いがします。



2018年5月9日豊中市文化芸術センター先行上映会
舞台挨拶登壇！

90年ほど前に父親が設計し、
当時としてはきっとモダンな建物だったの
でしょう。
その建物は…

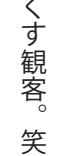


ほんま、主婦はつらいよ

ますます活躍
ドラマ・舞台など
NEWS
●2月 キタデミー賞 北海道命名 150年記念受賞 / 国立映画アカイブ アドバイザー就任 / 「遙かなる山の呼び声」ドラマ化発表 (阿部寛&常盤貴子) 5月~6月全編北海道ロケ 今年秋放送予定
●4月 シネマ・コンサート開催 映画「砂の器」/母と暮らせば他舞台化 戦後の「命」三部作 10月から全国で！
●5月 山田洋次脚本 石井ふく子プロデュース TBS系特別企画「あにいもうと」発表会見 6月25日午後8時放送 NHK 山田監督と蒼井優 対談 ●6月 TBS「サワコの朝」登場

いろんな世代の方が肩を寄せ合い、山田映画を楽しみ、白髪の車いすの観客の方も多く、まわりがいたわりながら席をゆずり合い、そして会場を後にされた光景が印象に残りました。

「こんなに多くの方に見ていただける、会場のホールも素敵です。いつか『家族はつらいよ』のキャストである妻夫木君が、このホールのピアノの調律するシーンが撮れたらなあ、と思ったりします」とのお言葉にまた大拍手。 2018年5月25日 世界の映画界の巨匠であり、ご存知「豊中市名誉市民（2016年5月）」でもある、山田監督。昨年に続いての豊中入り、何とも嬉しく、上映された新作と共に感動、感動の一日本になりました。



いろんな世代の方が肩を寄せ合い、山田映画を楽しみ、白髪の車いすの観客の方も多く、まわりがいたわりながら席をゆずり合い、そして会場を後にされた光景が印象に残りました。

「こんなに多くの方に見ていただける、会場のホールも素敵です。いつか『家族はつらいよ』のキャストである妻夫木君が、このホールのピアノの調律するシーンが撮れたらなあ、と思ったりします」とのお言葉にまた大拍手。

●音楽劇「マリウス」のご案内

「マリウス」は、山田監督が手がけた映画「男はつらいよ」シリーズの原案になったフランスの人気喜劇「マルセイユ三部作」が原作。その中から、これまで何度も舞台化、映画化されている「マリウス」と「ファニー」を音楽劇にして編成されます。

船乗りを志すマリウス役を桐山照史（ジャニーズWEST）、恋人のファニー役は女優の瀧本美織さんが演じます。そのほか、マリウスの父親役に柄本明さん、ファニーの結婚相手役に林家正蔵さんらが出演します。

劇中には歌やダンスが盛り込まれるということで、桐山君の本領発揮が期待されます。楽しい舞台となりそうな音楽劇「マリウス」、2018年6月8日初日～26日千秋楽まで大阪松竹座で上演します。

関西の皆様、この機会にどうぞ足をお運びください。

◆ご観劇料 一等席 12500円 / 二等席 6500円 ◆時間 11:30/16:30

◆大阪松竹座 TEL06-6214-2211

（時間は前もっておたしかめください。
休館日、午後の観劇のない日もあります。）



●とよなか山田会プレゼンツ「小さいおうち」上映会ご案内

監督が原作小説に惚れこみ、ついに映画化したのがこの「小さいおうち」です。太平洋戦争の足音が日に増しに大きくなっていく東京で、平井家のお手伝いさんとして住み込むことになったタキの視点で物語は進みます。この家には、主人である平井雅樹と妻の時子、息子の恭一が住んでおり、そこに雅樹の玩具会社の若手デザイナー板倉正治が現れて、やがてタキは大きな秘密を知ってしまうのです。松たか子は、秘密を心にしまう妻・時子を演じているが、彼女の口元と目が訴えてくる演技は、昭和を生きる女性の強さと、戸惑いと同時に、密やかな恋を受け入れる凛とした美しい女性を見事に表現しています。タキを演じる黒木華は、この作品でベルリン国際映画祭銀熊賞（最優秀女優賞）を受賞。松たか子と黒木華が山田監督の演出のなかで生き生きと演じる様子だけでも、この作品が傑作だとわかるでしょう。

◆とき 2018年9月14日（金）11:00/14:30/19:00 ◆ところ 豊中市立文化芸術センター小ホール

◆料金 一般 1000円（club cat 900円）ペア 1800円（club cat 1600円）*各回上映10分前にプレトークがあります。



●山田洋次ライブラリー講読会 ご案内

ところ・連絡先 岡町図書館（TEL06-6843-4558）とき 2018年毎月第3金曜日 午後2時から3時 講師 能登宏之さん
プログラム

- | | |
|----------------------------|-----------|
| 1. 名誉市民までの道のり | 5月 18日（金） |
| 2. 山田洋次著「映画をつくる」から①映画と私 | 6月 15日（金） |
| 3. 山田洋次著「映画をつくる」から②素材と脚本 | 7月 20日（金） |
| 4. 山田洋次著「映画をつくる」から③映画作りの現場 | 8月 17日（金） |
| 5. 梶久美子著「昭和二十年夏、子どもたちが見た日本 | 9月 21日（金） |



「とよなか山田会」へ入会しませんか！

世界に誇る監督・脚本家山田洋次さんが生まれた豊中を誇りとし、もっとその作品と監督、それを支えてきた日本映画の素晴らしさをひろめるため平成26（2014）年発足。どなたでも賛同する方に入っています。

問合せ先 とよなか山田会（代表 武市進）
住所 〒561-0894 豊中市勝部1-1-7 携帯番号 080-3868-2010 FAX 050-7100-3065
メールアドレス info@toyonakayamadakai.com ホームページ http://toyonakayamadakai.com
会費は今のところ無料（カンパ、ボランティア歓迎）

fax（入会していただける方は、下に記入の上、050-7100-3065まで）

お名前

ご住所

連絡先及びメルアド

「妻薔薇の観方」

妻薔薇・家族はつらいよⅢのあらすじ

史枝(夏川)は、育ち盛りの息子2人と夫・幸之助(西村)、そしてその両親と暮らす主婦。ある毎下がり、家事の合間にまどろんでいた隙に泥棒に入られ、冷蔵庫に隠しておいたへそくりを盗まれてしまう。幸之助から「俺の稼いだ金でへそくりをしていたのか」と嫌味を言われ、たまつていた不満が爆発した史枝は家を飛び出していく。家事を司る主婦が不在となつた平田家は、大混乱かつ崩壊寸前。具合の悪い富子(吉行)に代わり、周造(橋爪)が掃除、洗濯、食事に挑戦するが悪戦苦闘を続け、家族そろつて史枝の偉大さを痛感する。しかし史枝が帰つて来る気配は一向なく、またも家族会議が緊急招集される。

「観方」満載の妻薔薇――あなたはどう観る?

この映画は、「家族はつらいよ」シリーズであることは確かながら、今までにない全く新しい「アーマー」観る者への問い合わせが深くさせられているようです。

3世代同居という「大家族」、何かコトが起きたと4世帯8人が集まる「家族会議」という何でもない光景が、今は失われた「美風」。4世帯のキャラクターとそのキャスト、それぞれの役割分担、それら「シリーズ」らしい継続性に安心感というかかりラックスした空気が漂います。

「家族はつらいよ」=「家族はいいよ」もあるシリーズ――

一方、途中から緊張感と思考を迫るシーンが続きます。一の「熟年離婚」、二の「孤老」と現代課題の「アーマー」を、笑いで包むという「シリーズ」の特徴は変わらないものの…これはただの「家族はつらいよ」ではないぞ、「家事とは?」「家計とは?」「夫婦とは?」「男・女の役割、あるいはその克服は?」「人間関係を支え、育む?」「ミニユーニケーションとは?」…そして「家族とは?」山田監督はいくつかの大切なメッセージを送りながらも、観客の「考える」ことを求めているのでしょうか。

同時に映画の楽しさ、味わい方もふんだん!登場人物一人ひとりの役柄、役づくり、演技の絶妙さ、鶴瓶のタクシー運転手、うなぎ屋さんの瞬間登場、そしてちりばめられた「クスッ」とする場面、…と表現者・山田映画の完成度の高さが伝わります。

という異常に「妻薔薇」はきっと人により、いろんな「観方」があり、見落としてはならない要素もあると言えるでしょう。さて、あなたはどう観る?

山田監督が語る“妻薔薇” 「やくべつ」の立場から“考えてきた

2018年5月31日(木)朝日新聞より抜粋

なぜいま主婦を?

いま、ではなく、寅さんを作つてゐるときから、いつも考えていたことです。

妹の「さくら」は、実家の団子屋さんの共同経営者だけど主婦です。作品の中心的存在ですが、彼女はとても賢い人で、一緒に暮らしている家族や地域の人、自分の友達の心がよく読み取れ、生活を大事にくらしている。教養とは人間関係に関する深い洞察じゃないかって。さくらさんは、この教養がある人で、そういう人がいてくれると家族、地域、職場はうまくいく。だから寅さんはさくらさんに会いに戻るし、家族に色々な人が出入りします。地域と家族が垣根なく緩やかにつながつていくつていうかな。そんな光景はこの国から消えてしましましたけどね。

「男はつらいよ」=「家族はつらいよ」

ただ、「主婦」や「嫁」という言葉には、とても引っかかる。女性を附属物のように考える響きがあります。「家族はつらいよ」では三世代同居を描いていますが、それがいいが、そうじやなきやいけないなんてこと、僕は考えていません。それは「親の介護は息子の嫁がする」ということにつながつてしまつ。

「働く女性」というい方を変です。主婦は「働かない女性」なのがと、さくらのような複雑で難しい労働を、「女の仕事」とひとくくりにし、評価してこなかつたことに、この国の大好きな問題があるんじゃないでしょうか。



「さくら」さんこそ
「妻薔薇」の原点?



山田映画の持つ不思議な力

劉燕子

とよなか山田会のお誘いで「家族はつらいよ」Ⅲの先行上映を観られることになった。阪急電車で会場に向かう。パンフレットを見ながら、友人とおしゃべりしていると、向かいの座席にいた上品で知的な雰囲気の婦人が首をかしげていた。電車を降り、会場に行く途中、婦人から「もしかして上映会に行くのですか」と優しいぬくもりのある声をかけられた。「はい、そうです」「どうですか。よかったです」先ほど山田洋次監督の作品についてお話ししてましたね」

友人が「彼女は中国の方で、寅さんのファンですよ」と。「そうですか。私は『学校』Ⅲの原作者の鶴島紺沙子と申します」私は「『学校』Ⅲを観ました。すばらしい作品で感動しました」と。こうして会場に着き、上映会が始まった。

終了後、楽屋で偶然、また鶴島さんとお会いでき、いつしょに山田監督とお話しした。監督は彼女と親しく30分以上も語りあつていた。私は監督に「是非、在日外国人の家族を描いてください。いろいろな涙と悩みとけんかと小さな喜びに包まれる毎日です」と。

翌日、鶴島さんから短編小説集『トニーの夕陽』が届いた。自閉症の息子トニー(登美郎)とカーサン(母)を中心とした連作が主となつてゐる。「濃い涙のインクで書かれている分、読者に限りない癒しを与えてくれる」(瀬戸内寂聴)。

山田監督の作品には何か不思議なご縁で人と人の絆を編みあげる力があるように感じる。今朝も寅さんの歌「奮闘努力の甲斐もなく今日も涙の陽が落ちる」をイヤホンで聴きながら授業へと足を運ぶ。

NHK Eテレ 2018年5月12日放映!

対談

山田洋次 × 蒼井優

「おとうと」「東京家族」「家族はつらいよー」等、今や山田映画には欠かせない蒼井優さん。お一人の対談 時間じつくりと楽しみ、味わい、映画、演技の深みを垣間見ることができます。撮影現場での監督の表現者としてのきびしさ、それに応じようと懸命の努力、向上を重ねる蒼井さん…日本の映画レベルの高さを改めて支える姿が伝わります。「ウーラー!」と鳴く犬に「ワン」と鳴け」と指示されたとの蒼井さんの「裏話」には笑えました。この番組を見た友人から「山田洋次さんで素敵、かつっこい」との声がかかりました!

